

神戸幼稚園の新しき試みの一と端(一)

神戸幼稚園保母 志

賀

末

私共の園では昨年九月より新らしき試みを實

施致しまして今日まで日々研究的に此の意味深き
幼児保育の爲めに何等かの貢献をなさんとして今
なほ繼續しつつ種々の経験を重ね絶えず努力いた
して居りますが日も浅くこれといふ功績もござい
ませんけれども此處に至りし動機、方法乃至は今
日までの経験の一端を極めて具體的に申上て見度
いと存じます。

私共は三年前に其時分の一齊保育に不満を感じ
ましてどんな風にしたならば子供も楽しみ又私共
も心に満足が出来るかと思ひ苦心焦慮の末フト實際生
活を澤山に保育の中に取り入れることを思ひつき
ました其一番初めに試みたのは澱粉の製造であり
ました播鉢とわさびおろしと馬鈴薯はおもしろく
子供に用ひられました製品は子供にもお客様にも

御馳走されました。

次に思ひ付たのは染物でした、いろ／＼の紙を
試みて後、改良半紙のよいのが適當であると判り
ましたので其紙を正方形や三角形にたゝみ角やふ
ちを染料につけて絞り染をさせました、割合に手
を汚さないで結果はきれいに出来上り且其染めた
ものを古新聞紙にのせて日光に乾かすときの子供
の嬉しそうな態度は私共を満足させました、已に
乾いたらはその絞りの周圍に色鉛筆で模様をかく
ことは幼児の發明でありました、製品は保管され
て人形の着物やおふとんや摺み紙やいろ／＼に用
ひられました。

次に思ひ付いたのは種々の玩具を製造すること
でした、まりや、糸巻や、はかり、やが數多く工
夫されました。

次に尤も幼児の喜ぶのは大工仕事でしたこれにも澤山の工夫がされました第一に自分の辨當の札や女の子には機織の道具や下駄や机や飛行機、軍艦、シグナル、梯子などは主なるものでした。

夫からお洗濯やはりもの、これは大分幼稚園の洗濯賃を節約する事が出来る程夏の間は子供に喜ばれました。

かやうな種々の仕事を幼児にさせるためには種々の方法が考へられました。

第一法は分團法でありました第一組の子供を八人乃至十人位の一團として四ツ位の團をつくり毎日其中の一團丈を目的として凡ての注意を拂ひ他の三團は全く幼児の自由に任せました、後には一團を四人位に減じても見ました自由を得た幼児は庭で遊んだり晝をかいたり積木をしたり各種の製作、まゝごと、お唱歌、粘土細工などをして居りました、何を申すも幼児の数が多くて一人の保母の手に餘る處からいろ／＼の苦心が出来るのであ

ります。

然るにこれ丈ではどうも保母の心が満足しませんでしたので第二法を考へました。

それは一組の子供の智力検査をして其缺點のある處を記載しておき、なほ、言語、舉動等矯正を要することは記載して一覽表をつくり毎日二三人づゝを矯正指導して標準まで進まするとに致しましたしかして其他の兒童は全く自由に遊ばせたりまた、一齊に話をしたり歌はせたり好む仕事をさせたり致しましたがこれも充分に満足することが出来ませんでした、斯くて滿二年は過ぎ去りました去年の夏休中には私共は九月から必、革新したる意味ある保育をせねばならぬと決心しました。

その主要なることは智育德育もさることながら幼児教育の第一義は體育にあること勿論なる故に今度はこの目的の爲に猛進して見やうと決心致しました、しかし前記の方法を全然採用せぬ譯にてはなく目的の置き處をかへたまでのことでありま

す。

其の革新的試みといふのは従來行つて居た幼児の年齢別に依る組の編成を廢して彼等の體格を基本として全然新らしき組を組織したことでございます斯く申しました丈では極めて單調な事實に過ぎませぬが此の事實の裡に存る眞の意味を解して此の試みを聞いて貰ふといふことは私共の立場として最も要求する處でございます。

扱て組を分けますに幼児の體格を標準とするとな數の上から不均等な組の出來ないかと云ふ恐れもございましたが分類して見るとはからずも自ら人數の割合が都合よくまいりました、中でも弱の組は幼児の數最も少なく廿九人でございますこととは園児の全體に對する身體の薄弱なる者の少數なこと、今一つは最も細心の注意を要する此の組の今後の保育方に利益なることでございます。其の六つの組は大體左の様なものになりました。

強組(紅葉の組) 年齢大にして身體強健なる

もの。

大中組(菊の組) 年齢大にして體格中等の者。

小中組(桔梗の組) 年齢少にして體格中等。

小強組(櫻の組) 年齢少にして體格強健なる者

大小中組(梅の組) 年齢は大小二様にして體格

中等なる者と九月より新たに入園したる幼児

弱組(撫子の組) 年齢に差別なく概して身體

薄弱なる者と特殊の疾病を有する者等。

右各組に子供の感じを害はぬためかつは便宜上花の名稱を附けました。

之を分けるには幸私共の處では毎月一回園醫について體格検査を行ひますから其の結果の示す處を受持保母の實際の觀察とそれに加ふるに幼児の體量、身長、胸圍を正常の標準に参照したものでございます。故に強組は體格強健にして特殊の疾患なくかつ正常の標準に適ひたるものにて弱組はすべて之れに反したるもの、故に體格は弱にして神經過敏、過度の腺病質、輕度の心臟病、脱腸、比較的呼

吸器の弱きもの等であります。これ等の組を受持つ保母は自信ある自己選舉と相互の間に於ける人選との方法を用ひて決めました處が之れもはからず適所に適任の結果となりました。そこで各保母は思ひ／＼に幼兒保導の根本的意義として時代の思潮を鑑み自己の經驗に照して各々獨特の方法に依りて最も確信ある處を試みました。故に各組各々最も適當と信する案を立てこれに依りて日々の保育に當るのでございます。今弱組の保育についての大體の意味とその内容の概略を示せば次の様なものでございます。

一、幼兒の知識的方面より寧ろ全然彼等の身體方面に留意して其の健康、發達を計ること。

此の目的を達するためには左の様な具體的案を採つた。

一、雨天の外は室内保育を避けて日光と空氣の充分なる庭園を之れに當つ。

二、幼兒の状態を顧み出来る丈多く郊外遠足を

試みることに。

これは一週間に四度乃至五度行ふ。

幼兒自身も最もこの遠足をよろこぶ。

三、特殊の疾病を有する幼兒に對しては十二分の注意を拂ひ彼等に適する個人的運動を研究して課すること。

四、細心の注意を持つて幼兒の日々の身體の狀態并に精神狀態、彼等の要求―選擇する玩具などを觀察して事實を記載すること。

五、特に家庭との連絡を密接にして幼兒の體育方面に關する細心の注意を與へ共に／＼に彼等の健康増進に努むること。(以下次號)